公益財団法人　日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字　元総理 片山哲 筆

2023年11・12・24年1月号

発行編集人
公益財団法人　日本クリスチャン・アカデミー
代表理事　中村　信博

発　行　所
日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
075（711）2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY　第 632 号

なぜ今なおアカデミーは原発を問題にするのか

関西セミナーハウス活動センター運営委員長
小久保　正

関西セミナーハウス活動センターは、去る7月30～31日「原発回帰か再生可能エネルギー活用か：私たちはどんな社会を目指すのか？」と題する修学院フォーラムを持った。（四頁に報告掲載）

福島原発事故からすでに12年である。多くの人が、原発はもう過去の問題だと思っている。キリスト教に基盤を置くクリスチャン・アカデミーがなぜ今なおこのような意見の分かれる政治問題にこだわるのか、と問う人も多い。そんな中で、関西セミナーハウス活動センターは、これまで毎年1回この問題を取り上げ、今回で11回目である。それは、この問題が、教会が責任を負うべき社会の重要課題であると捉えてきたからである。

チェルノブイリ原発事故が生じた時、ドイツの教会は、これを教会が責任を負うべき社会の重要課題として捉え、原発が内包する罪性を指摘し、それからの脱却を提言し、2022年までに原発に依存しない社会を実現することを国に決意させた。それはドイツの教会が、第2次世界大戦中、ヒットラーのユダヤ人虐殺に対し果たすべき責任を果たさなかったという反省に基いている。

我々は、日本の原発とどう向き合うのか。日本政府は、今や何もなかったかの如くに原発を再稼働させ、日本を原発に依存する社会に戻そうとしている。教会は、黙してその罪性に加担するのかどうかが問われている。そんな状況下で、今回のフォーラムは開催された。

1970年大阪万博の会場に、美浜の原子力発電所から最初の電気が届けられた時、日本国民はこれを祝い、原発が新しい未来を開くと期待した。しかし私たちは、チェルノブイリと福島の原発事故を通し、原発は、とてつもなく多くの人の命を脅かし、長期に亘って命を危機に晒すものであると気づかされた。人類は、未だこの種の原発の暴走を完全に食い止める策を知らない。原発は、人の命を危機に晒す放射性物質を作り続ける。人類は未だ、これを無害化処理する策を知らない。福嶋　揚さんは、神学的視点から、原子力は生と相いれない「死の力」であると語った。

福島の被災地から来た片岡輝美さんは、国や電力会社は、事故による災禍をできるだけ小さく見せかけ、原発に依存してきた社会体制を温存、復活させることに躍起であると報告した。日本の政治の中枢にいる人たちは、原発を欠いては日本経済の骨格が崩れ、日本経済が立ちゆかなくなると恐れているようである。その意味で原発は、日本の社会を縛り上げている死の力の鎖である。

しかし、福島の被災地で農業を営む近藤　恵さんと、大学で風車を研究している牛山　泉さんは共に、私達にはその鎖から解き放たれる道が準備されていると語った。彼らは、太陽の光と風の力に目を止めるように促した。それらは、地球上のすべての人に万遍なく注がれているので、どこにいる人も、適当な受け皿さえ準備すれば、それを電気に変えることができる。余った電気は、蓄電器で貯めるか、水を電気分解して水素の形で貯めれば、必要に応じて使うことができる。

もう巨大で危険な原発は必要としない。既存の原発は、コンクリートで固めて石塚とし、愚かな人間の記念碑とすればよい。

地球温暖化をもたらすCO_2ガスを放出する石炭や石油を使う必要も無くなる。

地球上の一部にしか存在しない石油や天然ガスを巡って、戦争する必要も無くなる。

太陽の光と風の力は、地球上のみんなが平和に生きるようにと賜った神様からの贈り物である。福嶋さんは、これを「いのちの力」と呼んだ。私達は、このいのちの力を分かち合おう。

関西セミナーハウスも原子力に頼らず、太陽の光と、風の力だけで生き行く場に造り変えよう。それを通して平和と共生を発信する基地になろう。

（京都大学、中部大学名誉教授）

関東活動センター〈参加者寄稿〉

●2023年度　関東フォーラム「宗教対話」Ⅰ
〈連続講座〉アンコール開講　（共催：早稲田奉仕園）
「日本キリスト教史を読む」Ⅲ（昭和篇）
講師　日本基督教団千代田教会牧師　戒能　信生さん
2023年5月～11月第2木曜（8月休会、全7回）
Zoomによるオンライン講座

◇参加者寄稿

私たちはもっと戒能さんを批判しなければならない

山家　誠一

私が戒能信生さんのNCA連続講座「日本キリスト教史」に参加するようになったのは今期からだ。私は宗教一般には関心はあるが、キリスト者でも何でもない。そういう者の感覚にとっても、戒能さんの戦中戦後の日本のキリスト者評伝講義は非常に興味深かった。9月は北森嘉蔵さんを取り上げていた。

北森さんは浄土真宗門徒の家に生まれ、母親を介してルッターを知ったと言う。「国家は神の愛に叛ける世界・敗れた創造秩序・『破壊と艱難』の世界に属するもので・・・、国家が神の愛の対象となり、神の意志に導かれるものとなるのは、ただひたすらキリスト者の祈りと信仰による実践のみによるのである。真実の意味において国家はキリスト者によってのみ保たれ得るのである」（戒能さんによる『神学的自伝Ⅱ』からの引用）という考え方も面白い。国家と神の二元論をベースに、理不尽な国家を変革するのはキリスト者の祈りと実践だと語る。戒能さんは、北森さんの考え方には、後の「解放の神学」に見られるような、国家や抑圧者と戦う方向性が少ないと言う。それはそうなのだろうが、国家はキリスト者の祈りと信仰による実践によってのみ保たれ得るならば、信仰による実践活動による国家の改造もあり得る気もする。多分それは戦前の国家社会主義のようなものになるのかも知れない。

北森さんはこんなことも言っている。「教会が犯すあやまちという言葉には、明白に二つの場合が区別されねばならない。第一は、教会を教会でなくしてしまうような質のあやまちである。第二は、教会が教会となった上で、その教会が犯すあやまちである・・・。神のみわざは必ず歴史に媒介されて進められるということである。・・・国家権力に服して妥協したというような第一のあやまち。教派解消に当たって解決しておくべき問題と十分に取りくまないで、合同に踏み切ったという第二のあやまち・・・。」（戒能さんによる五人委員会「総括的なお答え」からの引用）

戦時中、国家権力に屈服したのは第一のあやまちで、教団内部の取り決め事項のあやまちは、第二の過ちだという。何やら、ばかばかしい分類だ。だから、戒能さんの言うように、北森さんの考え方からは、

戒能　信生講師

御子のご降誕をお祝いし、新年のご挨拶を申し上げます。

戦争という暴力によって危機にさらされている世界の平和、懸念される地球温暖化と環境問題など、内外ともに喫緊の課題が迫っています。

みなさまの上に、飼い葉桶の幼子を通して語られる希望が豊かにとお祈り申し上げております。

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー
代表理事　中村　信博

評議員　木原　活信　理事　榎本　栄次
〃　小原　克博　〃　戒能　信生
〃　原　牧人　〃　神崎　清一
〃　増田　琴　〃　神田　健次
〃　山本　俊正　〃　神保　正男
〃　横野　朝彦　監事　黒岩　裕二
〃　柳井　一朗
（五十音順）

関東活動センター　関東運営委員長　戒能　信生
所長代行　原　牧人

関西セミナーハウス活動センター　関西運営委員長　小久保　正
所長代行　榎本　栄次

関西セミナーハウス　経営委員長　神崎　清一
館長　森口　明洋

本部事務局　事務局長　神崎　清一
財団職員一同

・現在「はなしあい」は季刊であるため、少し早めのご挨拶をさせていただきました。

国家や権力に抵抗し闘う方向は出てこないだろう。しかも、「神のみわざは必ず歴史に媒介されて進められる」という原理が語られている。だとすれば、国家に弾圧され転向する第一のあやまちも、教会内部のいざこざも共に、歴史的現実に媒介されて進められた神のみわざの出来事だと考えざるを得ないことになる。それは神のみわざとして現実を受け入れるということだ。こういう一般人から見れば、不可解な思考が、キリスト者の中では、高く評価されているのは良く分からない。

戒能さんの講座の魅力は対象のキリスト者の取り上げ方、引用紹介される北森さんの文章などが、単にキリスト者を「解説」するのではなく、戒能さんの問題意識に明確に沿って選ばれ、構成されていることだ。今回の場合は、「戦中戦後のキリスト者の生き方」。その明確さが、講座参加者にはっきりとした問題提起となって、参加者も問いに向き合い考えざるを得なくなるのだ。参加者を思考の入り口に立たせ、対話・議論を促す感じがする。戦中戦後の日本のキリスト者の在り方を研究してきた戒能さんは、日本の神学研究者やキリスト者の根本的な問題は、お互い同士の間で「批判的議論が全く行われない」点だと言う。自戒を込めて言うのだが、私たちの講座でも解釈などの質問は良く出されているが、もう一つ突っ込んだやり取りが少ない気がする。戒能さんの答えを聞くという感じだ。質問が出るということは、戒能さんの考え方、感覚にどこか違和を感じているからだが、ならば、その違和感の向こうの感覚、思考のズレをもっと詰めて、お互いの共感点と対立点をはっきり言語化した方が、自らの思考の変革に繋がるはずだという気がする。私たちはもっと戒能さんを批判しなければならないと思う。戒能さんとちゃんと向き合うために。（ライター）

「日本キリスト教史を読む」Ⅲ（昭和篇）に参加して

西間木　公孝

「日本キリスト教史を読む」Ⅰ（明治篇）、Ⅱ（大正篇）と参加し、２０２３年度は第Ⅲ期の昭和篇に参加させていただいております。第Ⅲ期は、これまでと違って、取り上げられる人物が自分にとって、身近な人で、興味深く受講させていただきました。この講座はオンラインでの開講のため、わたしのように北海道に住む者でも受講することができました。

講師の戒能信生先生は、毎回、日本キリスト教史の中で、大切だと思われる人を取り上げ、その人が、どうしてキリスト教に入信したのか、どういった経緯で使命に向き合ったのかを年譜や著書、その人のエピソードを通して紹介されます。まるでその時代に生きていたかのように、生き生きと語られます。

特に戒能先生は、戦争に焦点を当て、国家と信仰の問題に切り込みます。戦争において、その人がどのように生きたのかを取り上げ、信仰とは何かを問います。

戒能先生は長年にわたる資料収集と調査研究に基づき、これまで語られなかった（語ることを避けてきた）歴史に言及します。これまで語られなかった闇の部分が語られることこそ、この講座の最大の特徴だと思います。戒能先生も時に言い難そうに、時に言葉を濁して、時に悲しみに寄り添い、語ります。人間の負の部分に光を当てることで、その人物が、わたしたちと同じただの人間で、その生涯の中で、深く悩み、苦しみ、涙したということが、その人物をより、わたしたちに近い存在にしてくれます。

特に、昭和篇は戦争の時代から激動の戦後、そして、高度経済成長の大きな価値観の変化の中で、キリスト者がどう生きたのかが興味が深いです。今の日本のキリスト教界の原型を作った人々の生き方を通して、今の時代の諸課題を根底から知り、その意味を考え、次の時代につなげていくために、とても良い学びでした。

（日本基督教団新得教会　牧師）

紅葉の関西セミナーハウスで共に過ごす３日間

京都の秋を愛でる

～ウクライナの平和を願って～

2023年11月23日（木・祝）12:00～25日（土）12:00

会場：関西セミナーハウス

☆講演、トークと美術鑑賞、ワークショップ、ピアノとトーク、トークと詩の朗読、渡辺総一作品展「平和への祈り」他

【講師・ゲスト】渡辺総一、渡辺なお、神田健次、榎本恵、橋本るつ子、沢 知恵

◎詳しくは「関西ｾﾐﾅｰﾊｳｽ活動センター」Webサイトをごらんください。⇒

関西セミナーハウス活動センター

●2023年度「開発教育セミナー」第2回
「地球と食の未来を考える
～人も自然も壊さない経済とは？～」
講師　京都橘大学経済学部准教授　平賀　緑さん
2023年7月8日(土)～9日(日)
会場　関西セミナーハウス

第1セッションは、自己紹介・フォトランゲージ「世界の子どもが食べるもの」の後、平賀さんから「壊れる食べものと地球」と題してお話を聞いた。

今や米・トウモロコシ・小麦の3種の穀物に世界人口のカロリー摂取の半分以上を依存する時代となった。資本主義経済のもとで、食品産業が食べものを加工し商品とすることで、利潤を追求してきた。その結果、人や自然がボロボロになり、気候危機やパンデミックの引き金となった。

第2セッションでは、多くの商品パッケージの記載から、商品の中の大豆由来を探した後、平賀さんから、世界の40％近くの大豆を生産するブラジルでは、大豆栽培に向いていない熱帯雨林を化学肥料で大豆畑に変え、地球の「肺」を切り拓いている。そしてその利益は、欧米のアグリメジャーや日本の大手食品会社が手にしてきたと、ズバリと話していただいた。

第3セッションでは、野菜にまつわるクイズの後、ロールプレイ「持続可能な食と農のまちづくり」を体験し、開発教育研究会の友前さんからそのモデルとなった南丹市の取組を聞いた。その後、平賀さんから、生命の糧としてのモノやサービスという使用価値を重視する時代へと移行していくことが重要であると、多くの事例を聞いた。

私たちの食の大部分は、目に見えない大きなシステムに組み込まれている現実を知り、強い衝撃を受けたが、地域のつながりの中で自分たちの手に農を取り戻すことができるさまざまなヒントをいただいたとの感想があった。

●2023年度 修学院フォーラム「エネルギーを考える」第11回
「原発回帰か再生可能エネルギー活用か：
私たちはどんな社会を目指すのか？」
「死の力／いのちの力」
講師　神学者　福嶋　揚さん
「私の後に続くいのちのために～福島からのメッセージ」
講師　会津放射能情報センター代表　片岡　輝美さん
「太陽の光を活かす～奪い合いを止めた先に」
講師　二本松営農ソーラー株式会社代表取締役　近藤　恵さん
「風の力を生かす～日本を救う洋上風力発電」
講師　足利大学理事　名誉教授　牛山　泉さん
2023年7月30日(日)～31日(月)
会場　関西セミナーハウス

我々は、12年前の福島原発事故を通し、原発は東日本一帯を人の住めない所にするほどの危険をはらんでいることに気づかされた。そればかりでなく、原発が一旦事故を起こせば、放出される放射能が広範囲の自然を汚染し、多くの人の命を脅かし、使用済み核燃料と事故炉の残骸が、長期に亘って住人の安全を脅かし続けることを知らされた。それにも関わらず、我々の政府は、原発を再稼働させ、これに頼る政策を進めようとしている。それは次の世代に安全な世界を譲り渡す私達の責任に反することにならないか？それが、このフォーラムを開催した動機である。4人のキリスト者が演者としてこれに駆けつけてくださった。

先ず、神学者の福嶋 揚さんが、原子力は、国家権力と巨大資本だけが使える技術で、しばしば戦争や自然破壊をもたらすので、死の力と言える、それに対し自然エネルギーは、いつでも誰でも利用できる技術で、人と自然、人と人を繋ぐので、いのちの力と言えると語られた。

次いで、福島の原発事故被災者の片岡輝美さんは、原発事故により周囲の山、川、田畑を放射能で汚染され、突然平穏な生活を奪われた市民は、12年後の今も不安な生活を強いられたままでいるが、その災禍の傷跡は消し去られ、また新たな原発災害が引き起こされようとしている、と述べた。

これに続けて、参加者でガラス工学専門の山本 茂さんが、放射性廃棄物の処理は行き詰まって目途も立っていないと紹介された。

これらに対し、福島原発事故被災農家の近藤 恵さんは、農地に太陽光パネルを並べれば、電気と共に農作物を高い収率で得られることを示し、太陽光を巧みに利用すれば、原発無しでもやっていけると語られた。これに先立って、彼の活動を紹介した映画「原発をとめた裁判長　そして原発をとめる農家たち」が上映され、感銘を与えた。

片岡 輝美さん

福嶋　揚さん

牛山　泉さん

近藤　恵さん

次いで足利大学で長年風力発電を研究してこられた牛山泉さんが、風の力を利用すれば、原発無しでも日本社会が必要としている電気全量を賄えることを示し、大きな電力を得るには洋上発電が向いているが、風は地球上のどこにでも吹いているので、誰でも小さな風車さえ準備すれば電気が得られる、だからもうエネルギー資源を巡って戦争する必要はなくなる、と語られた。太陽の光と風の力は、人類が平和に補い合って生きるために神様から与えられた贈り物である。

このフォーラムには、上智大学生16名、同志社大学大学院生3名を含む学生22名が参加し、活発な意見が交わされた。これは、特別寄付により学生の参加費を必要経費の半額以下に抑えることができたことによる。

●2023年度「開発教育セミナー」第3回
「私の〝伝えたい〟を探すワークショップ」

講師　劇作家・精神科医　くるみざわ しんさん

2023年9月9日(土)～10日(日)
関西セミナーハウス

今回のセミナーでは、くるみざわしんさんの演劇づくりを手掛かりに、自分の〝伝えたい〟を探すワークショップを実施した。聞き手に届くように伝えるには、自分が伝えたいテーマに合う人物を探すのではなく、自分が熱量を持って伝えたい人＝「その人」を見つけることが重要だとくるみざわさんは話す。さらに、「その人」のエピソードから現在の問題と重なる部分を切り取り、聞き手が「その人」の状況や心情を想像するための「問い」をつくる。自分の人生の中で影響を受けた「その人」を見つける作業は容易なことではなかったが、参加者一人ひとりが自分自身を見つめる時間となった。

2日目は、「その人」について自分の心に残っていることと、「その人」を知ってもらうための「問い」を考えた。3人グループで「その人」についての語りを聞き合い、問いかけ、応え、さらに、自分の〝伝えたい〟がどう伝わっているのかを相互にフィードバックした。「伝える」ということにこれほど丁寧に取り組んだのは、はじめてのことである。くるみざわさんの優しい語り口と参加者の傾聴の姿勢が、安心して語り合う空気を生み出し、〝伝えたい〟を見つけるヒントを得ることができた時間となった。

プログラム案内

◆関東活動センター

■2023 年度 聖書を読む講座 I

「マルコ福音書をジックリと読む」第6期

講　師：山口 里子さん（聖書学者）
日　時：⑦11月14日～2024年2月第2火曜18：30～20：00
参加費：全10回 8,000円、学生4,000円
方　法：Zoom によるオンライン講座

■2023 年度 宗教対話 I

〈アンコール開講〉連続講座

「日本キリスト教史を読む」Ⅲ昭和篇

講　師：戒能信生さん（日本基督教団千代田教会牧師）
日　時：⑦11月9日(木)14:00～16:00
参加費：全7回 6,000円、学生3,000円
方　法：Zoom によるオンライン講座

■2023 年度 宗教対話 II

連続講座「キリスト教文学に学ぶ」Ⅱ「生誕百年の遠藤周作『沈黙』『深い河』から宮沢賢治『銀河鉄道の夜』へ」第６回宮沢賢治　『銀河鉄道の夜』に至る賢治の信仰の深まり

講　師：山根知子さん（ノートルダム清心女子大学文学部教授）
日　時：11月27日(月)14:30～16:00
参加費：全6回 8,000円(学生4,000円)
方　法：Zoom によるオンライン講座

■2023 年度 宗教対話Ⅲ

読書会「キリスト教と文学」

講　師：柴崎聰さん（文芸評論家）日　時：⑥11月21日アガサ・クリスティー『ベツレヘムの星』
⑦2024年1月16日長与善郎『青銅の基督』
⑧2月20日スティーヴン・キング『グリーン・マイル上下』火曜14：00～15：30
参加費：各回 1,000 円
会　場：関東活動センター会議室（キリスト教会館1階16号）
（以上、共催：早稲田奉仕園）

■ 2023 年度 宗教対話Ⅳ

第９回 柏木義円公開講演会（共催）

講　師：片野 真佐子さん（元大阪商業大学教員）
日　時：11月18日(土)14:00～16:30
参加費：無料
方　法：Zoom によるオンライン
主　催：柏木義円研究会

◆関西セミナーハウス活動センター

■2023 年度修学院フォーラム「いのち」

第３回「旧約聖書と現代：人間と自然、人間と社会、人間と文明」

講　師：月本 昭男さん（古代オリエント博物館館長）
日　時：11月3日(金)14:00～4日(土)13:00
参加費：16,000 円、学生 8,000 円
会　場：関西セミナーハウス

■「京都の秋を愛でる～ウクライナの平和を願って～」紅葉の関西セミナーハウスで共に過ごす３日間

日　時：11月23日(木祝)12:00～25日(土)12:00
会　場：関西セミナーハウス
主な予定：〈1 日目〉1. 講演「祈りの造形」
〈2 日目〉2. トークと美術鑑賞「知りたいアジアのキリスト教美術」3. ワークショップ「楽しいアート」4. お話と懇親「ウクライナの平和を願って」5. ピアノとトーク「ちいろば先生を語る」、
〈3 日目〉6. トークと詩の朗読「かかわらなければ路傍の人～ハンセン病回復者との交わり」
〈期間中〉7. 作品展「平和への祈り」
講　師：1・2・7 渡辺総一さん、3 渡辺総一さん・なおさん 4 神田健次さん、5 榎本恵さん、橋本るつ子さん、6 沢知恵さん
参加費：全日程 35,000 円（2 泊食事代、市宿泊税込）1 ～ 6 各 3,000 円

■2023 年度開発教育セミナー

第５回「主体的に行動する市民を育む～「南」の島の出会いの現場から～」

講　師：藤野 達也さん（Evangelical Lutheran Church PNG,Lutheran Development Service）
日　時：11月4日(土)16:00 ～5日(日)12:00

第６回「マイクロアグレッションってなぁに？～日常に埋め込まれた差別と向き合う～」

講　師：北川 知子さん（特定非営利活動法人とんだばやし国際交流協会）
日　時：12月2日(土)16:00 ～3日(日)12:00
参加費：11,000 円（宿泊税別）
会　場：関西セミナーハウス

■2023 年度修学院フォーラム「社会」

第４回「戦争と兵役を拒否した人びと―二つの世界大戦時の英米と日本」

講　師：西村裕美さん（元立教大学コミュニティ福祉学部教授）
日　時：12月2日(土)13:30～16:00
参加費：1,500 円 学生 500 円
方　法：会場 関西セミナーハウスと Zoom 併用

■2023 年度修学院フォーラム「福祉」

第１回「スピリチュアルケアのこころ―ホスピスにおける宗教の役割」

講　師：ベネディクト・ティモシーさん（関西学院大学社会学部准教授）
日　時：2024年1月27日(土)13:30～16:00
参加費：1,500 円 学生 500 円
方　法：会場 関西セミナーハウスと Zoom 併用

財団本部　http://www.academy-nippon.com
関東活動センター http://www.academy-tokyo.com
関西セミナーハウス http://www.kansai-seminarhouse.com/
関西セミナーハウス活動センター http://www.academy-kansai.org

公益財団法人　日本クリスチャン・アカデミー
代表理事　中村　信博

本部事務局
〒 606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター
〒 169-0051　東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館 1 F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /
関西セミナーハウス活動センター
〒 606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

賛助会費・寄付金報告

2023 年 7 月1日～ 9 月 30 日
（順不同・敬称略）

◆財団本部

寄付
柳井　一朗

◆関東活動センター

賛助会費
全国教会婦人会連合
古賀　博

寄付
許　昌範
増田　博
北原　和夫

◆関西セミナーハウス

寄付
カブトムシまつり有志
柴田　賢司
京都桃山アシュラム

◆関西セミナーハウス活動センター

賛助会費
徳丸　延子
濱田　真奈美
新宗連大阪事務所
公文　孝枝
吉田　力
桜井　希
都木　かおり
丸山　まり子
南　和子

寄付
京都みぎわキリスト教会
伊藤　威知郎
弘茂　昭子
牛山　泉
藤田　敦子

以上感謝をもってご報告申し上げます。